



山に囲まれたラオス北東部のシエンクアン県。コメの収穫が終わって村人が一息つく年末から、1カ月にわたる正月を迎える。

美しい民族衣装に身を包んだ娘たちが一列になり、数人の男性と向かい合っている。これは少数民族モン族の正月行事。男女が一列ずつに並び、恋歌を歌いながら愛のキャッチボールをするのだ。

モン族の村々では、新年を祝いながら30日もの間、こうして伴侶を探す集団見合いが行われる。朝食が終わるころ、周辺の村から男性が訪れ、日が暮れるまで女の子とまりを投げ合い、愛を語り、仲を深めていく。娘たちは13歳くらいから20歳前後だろう。

空き地、道路沿い、村の入り口……。あちこちでキャッチボールは繰り返される。50人以上の男女が2列になって投げ合う村もあれば、20人にも満たないこぢんまりとした村もある。

「僕は君のことが100億、いや数では表せないほど好きなんだ」

そんな男性の甘いせりふに恥ずかしげにうつむく娘。そして笑いと歌声とともに延々と続くまり投げ。村の新年は平和と微笑みに満ち溢れる。

春 夏
秋 冬

16

正月

お見合いで年明け

